

自立と共生！

たくましい日本！

No. 159号

## 民主党 中川正春の 永田町かわら版

2002年3月27日

〒100-8981 千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館 428号

TEL 03-3508-7128

FAX 03-3508-3428

## ○官僚をどのように使うか

## そこが、問題だ

政治家と官僚の関係を考えられています。広中和歌子さんが座長で、元検事の小川敏夫さんと私がサブという形で、プロジェクトチームが出来ました。

鈴木宗男議員の外務省の中への強引な介入と、業者などへの有利な取り計らいを促す「口利き」を、どのように正しい形で律していくかということです。

自民党の小泉さんに近いグループから発表された改革案は、イギリスを見習えというものでした。政治家と官僚の接触は原則禁止。与党も野党も、政策にする個別の陳情案件にしる、物を言う相手は、内閣のメンバーである大臣、副大臣、政務官や政治秘書官を通して話をする事が原則。

この報告書が出たとたんに、自民党の中はものすごいブーイングで、議論がおさまりそうにありません。いわく、「政治家から口利きを取ってしまったら何が残るんだ。」。これは、政権与党としては、誠に情けない話です。政治に責任をもつとは、政権をとった政党が、法律、予算の執行とともに、その結果に責任をもつということです。国家の運営を間違えるだけでなく、無駄遣いがあったり、一部に利益誘導するようなことがあって、立ち行かなくなれば、それは政権与党が責任をとることです。こそこそと官僚相手に口利きをすることが政治だと勘違いしている議員は、古きよき日本の残影でしかありません。与党であれば、理想は、イギリス型を掲げるべきだと思います。

**問題は、私達野党です。中立的な官僚を相手に出来ず、その能力や豊かな情報も活用できなければ、野党は断然不利な立場になります。**案の定、私がイギリスで見た政治も、政権与党の独裁。「野党が政権交代をねらうためには、今の政権運営の失敗を待つより仕方ない。政策の代案を作る暇があれば、選挙区で選挙運動をする。」こんなことを、イギリスの議員達が言っていたのを思い出します。しかし、ここ

## ○ここで迷うな、首都移転

首都移転議論が迷走しています。法律の趣旨から言えば、5月の末日には、3つの候補地の一つへの絞込みに目途をつけ、そこと東京と比べてどちらがよいかという議論に入ることになっています。

私も、今年は、このための特別委員会に所属をしています。問題は、どのようにして誰が一つの候補地に絞り込むか、この議論に收拾がつかず、右往左往しているのです。同時に、それぞれの政党の中も同じで、東京都知事の石原さんにあおられる形で、東京都選出の議員が中心になった反対派勢力が、日増しに強くなってきています。

国会は、12年間、議論を続けてきました。我が三重県をはじめ、候補地に挙がっている自治体や住民の皆さんからも、「国会は何をしているのか。堂々巡りの議論はここまですて、ここで結論を出すべきだ。」という声や、「どうせ、東京から移すことは出来ないのだろう。」というあきらめの声や、「新しい立派な総理官邸ができたのに。」という声が聞こえてきます。

**国会としての結論が出せなければ、その沽券にかかわる。こう言って、私も吼えています。首都移転をどう決断するか、地方分権とあわせて、日本の再出発の原点になると思っています。**

## ○満開の桜に、国会がマワル

千鳥が淵の桜が、今年もすばらしく、咲き誇っています。近くのイギリス大使館からも桜パーティーの招待がありました。私の住む九段の宿舎から靖国神社へと、お花見の人の波はたえません。おでん、とうもろこし、たこ焼きなどの屋台からのおう懐かしさに、つい足が向きます。とは言うものの、いつもより2週間近く早くに満開ということもあって、夜桜見物も寒いこと。

田中議員、鈴木議員のケンカから始まった国会は、辻本さん、加藤議員、鹿野議員など、留まると

で日本との大きな違いがあります。**イギリスでは、政権政党が失敗すれば、選挙で政権交代をさせて、野党が政権につくという事です。**

こんな議論をしながら、私達野党の立場にたてば、民主党としては、日本型の政治と官僚の関係を新たに考えてみようという事になりました。

ころを知らない勢いで、不祥事が噴出しました。満開の桜のなかで、国会は今日も回転しています。「大丈夫か日本。よみがえれ、政治！」と、国民の叫びが聞こえてきます。

中川正春